



これからも
保育料・給食費・
子ども医療費は
無償にします！

名護市議会議員

岸本 洋平

世界一やんばる一ナゴとつなぐ
若さと情熱

よ う へ い

これまでの主な活動と実績

子育て支援

- ◎保育料無償化で「認可外も対象に！」と強く提案し実現！
- ◎学童の運営が円滑にできるように
「補助金を前期にまとめて支給」を要望し実現！



子育て支援策を議会で強く訴え提案。

地域づくりと 安心・安全なまちづくり

2017年度国土交通大臣賞
「手づくりふるさと賞」を受賞！

- ◎「屋部川にじ公園」の建設と「七色にじまつり」の実施に奮闘！
- ◎老朽化した「うむさの森市営住宅」の建て替えの実現！
- ◎地域の交通安全対策や道路整備を提案し、
国道449号の「大型貨物車両の通行制限」を実現！



建て替え後の「うむさの森市営住宅」。

教育・スポーツ

- ◎あけみおSKYドームのフットサルコートを増面し建設！
サブ野球場へ「ナイター設備」、ラグビー・サッカー場の
整備など、21世紀の森公園の施設整備を提案し実現！
- ◎教育環境の充実に努め「教室へのクーラー設置」や「トイレの
洋式化」「少人数学級」、「防犯カメラの設置」による安全対策
などを推進！ 屋部小学校体育館のフロア拡大を実現！



名護でフットサルの大会開催が可能に！

経済活性化

- ◎市発注工事の「数量書（参考数量）公開」を要求し実現！
- ◎「下水道接続工事補助金」を提案し実現！

岸本洋平プロフィール

1972年12月生まれ 48才 宇茂佐区出身

略歴

屋部小、屋部中（40期）で学び、名護高校（46期）ではラグビー部で花園出場。
明星大学人文学部社会学科卒業。

早稲田大学大学院公共経営研究科修了（専門職修士）。

サミット事務局勤務後、（医）琉心会勝山
病院総務課勤務（5年間）。

平成18年名護市議会議員初当選。

現在4期目。

主な役職

- ・名護市国際交流協会副会長
- ・宇茂佐区行政委員
- ・名護市PTA連合会副会長
- ・うみのはし幼稚園
後援会（保護者会）長
- ・屋部小学校PTA会長
- ・（社）名護青年会議所理事長
- ・屋部支所管内地域振興会長



【信条】ノーサイド
(立場をこえてわかり合うこと)
【座右の銘】常に心に太陽を持て

皆さん、こんにちは！
岸本ようへいの後援
会長 稲嶺進です。
来年は本土復帰から
50年目、新たな時代を迎えようとして
います。岸本ようへいは、これまで市民と
ともに考え、汗をかいできました。
これまでの50年、これから50年を見据え
名護市の課題や思いを語り、一緒に行動しま
しょう！

岸本ようへい後援会長 稲嶺進



内部資料



来年復帰から50年 ここから50年のまちづくり

これからも保育料、給食費、
18才までの医療費は無償で
さらに充実！

子どもの貧困が大きな課題になっている
沖縄県において、格差のない教育環境を

つくることは急務です。待機児童を早急に解消するとともに保育士、教師の働く
環境整備や、きょうだいは同じ保育園に入園できるようにするなどの改善を行っていきます。

くらし・福祉の充実

高齢者や障がいのある方々が安心して暮らせる住環境の整備、各団体の取り組みをつなげて「大きなユイマールの輪」をつくります。

また、コミュニティバスのエリア拡大や、各地域のニーズにあった福祉の充実を図ります。



若者の未来が
光るまちづくり
障がい者、
弱い立場にある人を
誰ひとり取り残さない
まちづくり
やんばるの
世界自然遺産を
活かしたまちづくり

復帰つ子 ようへいと描く
私たちのまちづくり

地元企業の
底力の発揮で
豊かなまちづくり

高齢者が
安心安全の
まちづくり

市民のいのちを守る
責任あるコロナ対策

新型コロナ対策支援の拡充

医療・福祉従事者をはじめ、影響を受けているあらゆる産業の事業者を支援します。

今だからこそ地元企業を活用し地域に潤いと元気を取り戻します。

若者のリアルな声を政策に反映させます。



「小さな世界都市構想」を具体化

父・岸本建男が市長2期目に打ち出した「誇りあふれる小さな世界都市名護」。

私はこの構想を具体化させたいと考えます。

「国際的な研修センター」の創設

これは日本で働く世界の若者の受け入れ窓口となる機関と施設です。日本の文化、語学をはじめ、あらゆる産業の技術を学ぶことを目的とし、各地で活躍する

人材を育成します。もちろん私たち地元の市民も学べる施設です。このまちで働きながら夢を実現しましょう。

アフターコロナを見据えたまちづくり

沖縄には「イチャリバチョーデー」「ユイマール」に表されるような「寛容さ」「多様性を認め合う心」があり、名護市にはさらに名桜大学、サミットの経験という土壌があることから、世界から選ばれる施設になると考えます。

このプロジェクトは多国間の相互理解を深め世界の平和に資するものとなります。

将来はぜひみなさんと「平和の発信都市・小さな世界都市名護」を築きたいと思います。

「約束はすでに破られている」基地問題

父・岸本建男は普天間飛行場代替施設の辺野古への受け入れに際し「7つの条件」を政府へ提示。「どれか1つでも条件を満たせなければ受け入れを撤回する」という条件を政府は受け入れ閣議決定をした。しかし退任直前に政府から提示された「沿岸案」は7つの条件を満たすものではなく、「論外である」「到底、受け入れることはできない」と緊急声明を発表。それは退任を3日後に控えた2006年2月4日のことだった。その後、父・建男が亡くなつてからわずか11日後の2006年4月7日、後任の島袋吉和元市長が沿岸案受け入れを表明。7つの条件は反古にされ閣議決定も廃止となった。

この問題に当初から命がけで取り組んだ岸本建男の市長としての8年間と、その約束がまるで無かったかのように、今、埋め立て工事が強行されている。私は、この辺野古新基地建設を到底認めるとはできない。信義はすでに破られている。さあ、今こそ名護市の建て直しを！

